

(一社)大学女性協会奈良支部主催

「奨学応募生のお話を聞く会」のご報告

2025 年 3 月 1 日 (土) 午後 1 時半から、奈良県女性センターにて標記の会を開催しました。参加者は今年の応募者 3 名を含む 13 名でした。支部長の挨拶では、今年の国内奨学生応募者総数は 87 名であったこと、ここ数年は理系の研究者応募が目立っていることなどの紹介がありました。その後、3 名の応募者が、それぞれ取り組んでいる研究についてお話ししてくださいました。

○細田千裕氏 (奈良県立医科大学大学院 医学研究科 博士課程 4 年)

研究テーマ「化合物を用いた血管内皮細胞からの血管内皮前駆細胞作製」

○小杉夏実氏 (奈良女子大学大学院 人間文化総合科学研究科 博士後期課程 1 年)

研究テーマ「エストロゲンによる μ オピオイド受容体を介した快楽性甘味摂取亢進メカニズムの解明」

○菅咲桜里氏 (奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 博士後期課程 1 年)

研究テーマ「寄生植物の防御法開発に向けた吸器誘導阻害物質の作用機序の解明」

細田さんの研究は、血液凝固第 VIII 因子欠損が原因で起こる血友病 A 治癒を目指したユニバーサル細胞療法の開発を目指した研究であることが紹介されました。血友病 A の現在の治療は、凝固因子製剤による補充療法や抗体医薬が主であり、生涯にわたる投与が必要なために、患者の QOL 低下と医療費が問題です。それを克服するために進めている細胞治療の開発を目指した研究について紹介されました。表題にある血管内皮細胞とは何かという説明、血管内皮細胞を化合物によるリプログラミングによって血管内皮前駆細胞に誘導する際、どのような化合物の組合せが、血管内皮前駆細胞のマーカーである CD34 の発現を上昇させることができるかについての取り組みについての説明。実際の患者さんの QOL 改善を目指した日々の取り組みについて、熱のこもったお話しでした。細田さんは、子どもさんもおられ、研究室に連れてくることもあって、理解あるラボであるとの紹介もありました。

小杉さんの研究は女性ホルモンであるエストロゲンに関するものです。女性ホルモンであるエストロゲンについては、女性らしい体型づくり、妊娠準備等に関わっていることや、エストロゲンが減ることによって骨粗鬆症になりやすいことなどを、研究者ではない参加者も耳にしています。そのホルモンが快楽性摂取調節を介して、甘味溶液の摂取を亢進させること、そのメカニズムに μ オピオイド受容体が関与していることを、雌ラットを用いた実験により調べたという内容のご発表でした。初めて知る内容はとても興味深いものでした。将来的には女性の体内ホルモン環境を考慮した肥満や生活習慣病、神経疾患や摂食障害の治療に貢献できるとの期待の元に、研究を進められているとのことでした。

菅さんの研究は、近年アフリカを中心に世界的な農業被害をもたらしている寄生雑草に

関するものです。寄生雑草は「吸器」と呼ばれる独自の侵入器官をもっており、吸器を用いて宿主植物に寄生、道管に連結することで、宿主から水や養分を獲得することの説明がありました。研究室で同定された新規吸器誘導阻害物質に着目し、その標的遺伝子や標的タンパク質を明らかにすることで、吸器誘導のメカニズムの解明につながり、ひいては、吸器形成に着目した防除法につながると考えて研究を進めているというお話がありました。菅さんは、最初は動物を対象にした研究をしていたそうですが、途中で大きく研究テーマを変更した経緯をお持ちとのことでした。一つのことに行き詰っても、新しい道を開き、奨学金に応募するまでの成果を上げていかれることも素晴らしいと思いました。

3人のご発表後には質疑応答や意見交換を行いました。いくつかの専門的な内容についての質問もありましたが、その他、いろいろな角度からの質問や意見があり、日頃研究者対象の発表をされている方々にとっては、新鮮であったり、新たな気付きもあつたりしたのではないかと感じています。例えば、菅さんのご発表に対しては、害植物の駆除という観点で見ることが多いと思いますが、「害植物も、その生態系で何らかの位置を占めているはず。もし、その植物が完全になくなれば、思わぬ生態系の変化が起こる可能性もあるのではないか？」といったコメントがありました。3人の発表はいずれも素晴らしく、「どうして、こんなに素晴らしい研究が、採択されないのでしょうか？」という感想も。審査員から応募者に対し、簡単でもよいので、何らかのコメントを添えてほしいものだとの要望もありました。

子育て中の応募者からは、「皆さんの時は、どのように仕事と家庭を両立されていたのでしょうか？」という質問もありましたが、参加者の多くはシニアであり、「今とは時代が全く違いました」と、当時の様子の紹介もありました。今は、大学にも様々な支援制度があり、シニアから見ればよい時代になりつつあると思われませんが、まだまだ、日本の制度には課題も多いと思いました。

応募者の今後の益々のご活躍を願い、和やかな雰囲気の中に閉会となりました。

(文責 中道・平井)

